

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第三小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。 <small>(※夏季休業期間の変更に伴う教育課程編成の工夫を含む)</small>	A	tetoruでの情報配信、11月の土曜参観を含めた1週間の学校公開・運動会での無制限参観等の取組が評価された。HPIについては次年度児童の活動の様子が分かる発信をしていく。	A	学校運営協議会での資料が分かりやすい。 校長先生を中心に組織体となって取り組んでいる。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 <small>(※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)</small>	A	計画的に避難訓練を実施し、児童の危機管理能力の育成を図ってきた。地域の不審情報等の配信を随時行い、児童の安全確保に努めてきた。事故を未然に防ぐため、毎月10日の全職員による安全点検を行い、補修改善を行ってきた。	A	様々な取り組みを工夫改善しながら取り組んでいる。今後も地域との連携も視野に取り組んでほしい。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	各学年の課題を解決するための週1回の学力向上に向けたステップアップタイムの取組、Aドリルでの学校の宿題の配信、5・6年の教科担任制度の導入、5年算数のTT授業などで基礎学力を伸ばす授業の展開などで、全国学力・学習状況調査では全国比で算数+2pポイントと成果を上げた。	A	6年生の学習発表会で、6年間の成長を見ることができた。子どもたちの頑張りを感じた。 学力課題に色々なアプローチをしている。 引き続き取り組んでほしい。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	本校独自の三小学力テスト(三学調)を作成し、1年を除く全学年で実施した。タブレットで回答するCBTを作成・実施した。全学調・県学調・三学調の結果を各学年で分析し、課題解決のための取組で学力を向上させてきた。後期の三学調では全クラスで学力の向上が見られ、成果を上げた。	A	三学調でのCBTの実施など、工夫されていることがわかった。 学力を上げるために、授業の工夫や体制の整備などで課題解決に迫っている。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	毎月の生徒指導部会で各学年の報告と今後の指導や支援体制を話し合い、実践してきた。規律ある態度の育成の調査では、12項目×5学年=60項目の内51項目で市目標の80%を達成した。中でも、時間を守る、清掃で本年度も成果を上げることができた。整理整頓は次年度の課題である。	A	定期的に生徒指導の報告会を行い、情報を共有し、共通対応をしている。時には、外部の力を借りて対応を。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	児童会を中心としたあいさつ週間の毎学期の取組、なかよし宣言(クラス単位の人権活動)等の取組などで、児童の健全育成を図ってきた。年間2回の個人面談や毎学期2回の教育相談日で保護者と連携し、児童個々の課題に寄り添ってきた。	A	先生たちは助け合い、協力し合いながら、諸課題に取り組んでいることが伝わってきた。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	運動の得意な児童の指標である新体力テストA+B+Cの割合は70.8%で、中でも立ち幅跳びが全学年男女ともに県平均を下回っており、課題である。一昨年度の体育科における校内研修での取組の継承(授業スタイル・三小体操)や運動の日常化が図れるようにしていく。	B	三小に限った課題ではなく、体力向上は現代の子供たちの課題であるが、引き続き工夫をこらして、学校として体力向上に取り組んでほしい。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	体育の宿題や外遊びの奨励、体育授業の工夫改善で運動好きな児童の育成に励んできた。3学期のフレッシュタイムではクラス長縄(2分間・学級2チームで跳べた数を競う)に取り組む、寒い時期に休み時間に外に出て、クラスの仲間と技を向上させていく姿を見ることができた。	A	新たにわくわくどーむでの水泳授業の取組は、とても評価できると思う。以前よりよくなってきているが、体力向上のため、引き続き継続的に行ってほしい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	A	民間企業(農協・LINE・ヤクルト…)や行政機関(社会福祉協議会、税務署…)など様々な職種の方を招聘し、交流や講義を行っていただき、健全育成を図ってきた。五中見学、保育園との交流等、子ども同士の交流も行ってきた。PTAの方々にもご支援を頂き児童を健全に育成してきた。	A	不登校0を目指した取組を継続的に行ってほしい。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	県スクールカウンセラーとの面談を積極的に呼びかけ、児童理解に努めてきた。五中校区さわやか相談室、きこえとことばの教室、通級指導教室、子ども相談室とも連携しながら教育相談にあたってきた。	A	幼稚園の先生は保護者とのつながりが強いので、相談してほしい。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満